

エノキタケを食害するキノコバエの防除法

林業研究部 きのことグループ

近年エノキタケの生産において、パックした製品にキノコバエ幼虫が混入して問題となっているが、防除の基礎となる生態的性質はほとんど明らかになっていない。また、きのこ栽培においては無農薬が基本である。防除法を明らかにするため、まず生態調査を行い、それを用いた防除技術を開発した。

【普及したい技術のポイント】

- ①羽化防止・・・廃棄エノキタケから羽化するので、それを集めて処分（集落全体）。
- ②侵入防止・・・二重扉がよい。換気扇開口部からの侵入はネット被覆で防止。
- ③侵入したキノコバエの捕殺・・・光に誘引されるので、光誘引電撃殺虫器が有効。
- ④作業時間帯の工夫・・・日中キノコバエが活動しない時間に、扉を開けての作業。

【研究成果の内容・留意点】

1. キノコバエの羽化防止法

廃棄エノキタケから羽化し、菌床にはいない。羽化した成虫は再び施設に侵入する（図1）ので、防止するために、廃棄エノキタケを集めて焼却処分する。焼却できないときはポリ袋に密閉して直射日光にさらすと幼虫は死亡する。ただし、この作業は集落全体で行わなければ効果が期待できない。

2. キノコバエの侵入防止法

キノコバエは扉の隙間や換気扇開口部から侵入するので、入口は二重扉にし、換気扇開口部はネット（1～2 mm）被覆によって侵入防止を図る。

3. 侵入したキノコバエの捕殺

キノコバエは芽出し室の中で光に誘引される。光誘引電撃殺虫器が有効である。

4. 作業時間帯の工夫

キノコバエは朝夕、特に夕方活発に活動し、日中11時～14時の時間帯は活動しない（図2）。従って、扉を開けての作業は、日中11時～14時の時間帯に行うようにする。

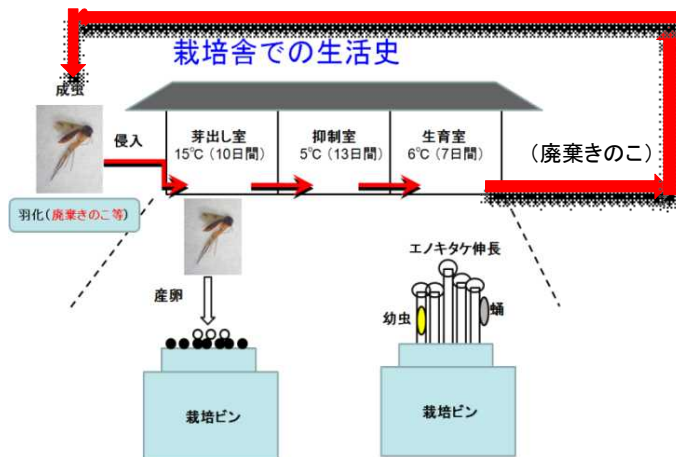


図1 キノコバエの栽培舎における生活史

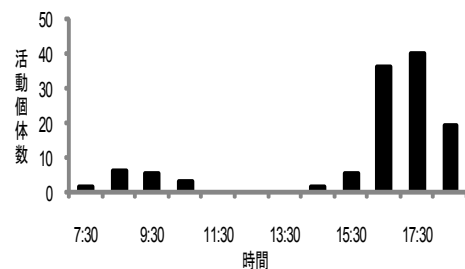


図2 キノコバエの時間別活動個体数